

## 日本の強み、数学教育をフィリピンへ！

伝統と最新技術を組み合わせた教材で国際貢献

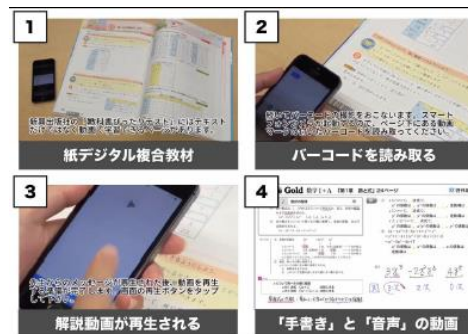
国際協力機構(JICA)は6月30日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社新興出版社啓林館(大阪府大阪市、佐藤徹哉代表取締役)が提案する「紙とデジタルの複合教材(スマートレクチャー)を用いた数学力向上に関する案件化調査」(フィリピン)を採択しました。

フィリピンは数学の国際テストで45か国中41位という結果が示すよう、小中学生の数学力の低さが深刻です。2012年から新教育制度が導入され、基礎教育が10年制から12年制に延長され、教員や教材の質改善などに力を入れているものの、まだまだ課題は多く残っています。

この問題に対し、中学校の数学・理科の教科書トップシェアの新興出版社啓林館は、テキストとデジタル教材を組み合わせた教材「スマートレクチャー」による数学力の向上をめざします。スマートレクチャーは日本の教育方法の強みである体系的な数学の教授方法に基づいて作られており、現地語の動画や手書きの解説を見て学習ができる点が大きな特徴です。



フィリピンの学校の様子



スマートレクチャーの仕組み

今回の調査では、フィリピンでも学力が低いミンダナオ島の学校でのパイロット導入やワークショップなどを行い、現地のニーズや製品の効果を調査する予定です。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第1回分は本年2月に公示を行いました。117件の応募のうち35件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。参考:(プレスリリース)案件化調査2016年度第1回公示の採択結果について

URL: <http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 小西

TEL 078-261-0397 e-mail: Konishi.Yoko.2@jica.go.jp